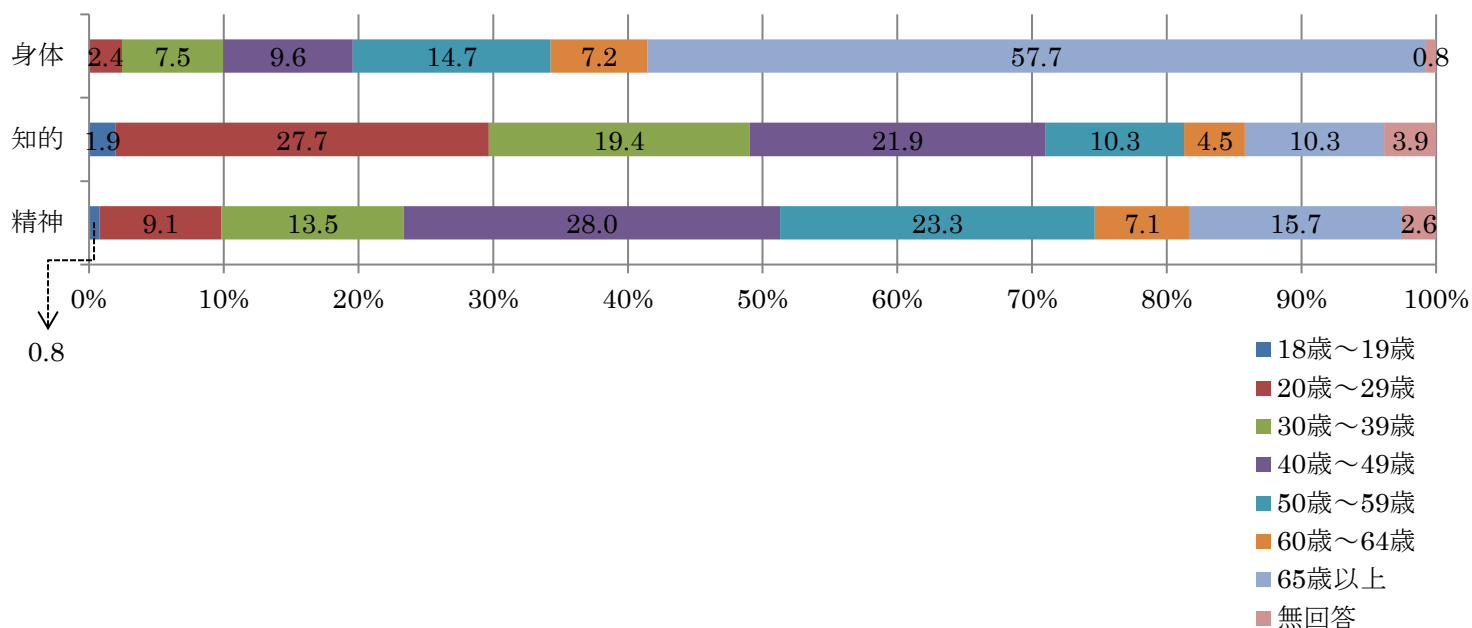


令和元年度実態調査単純集計結果報告（一部抜粋）について

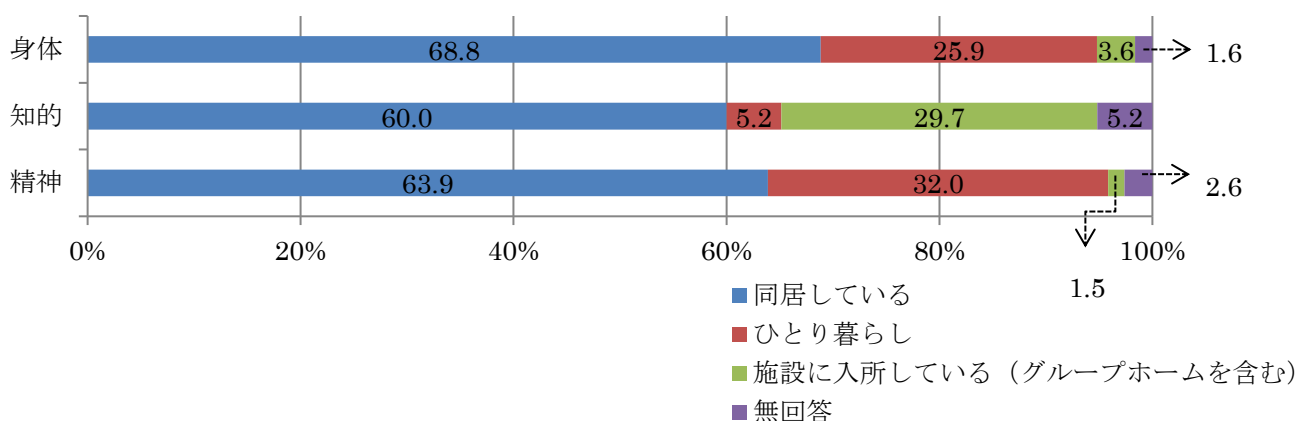
平成28年度の中央区障害者（児）実態調査と今回の調査の一部比較を行った。

(1) 回答者について

（問） 令和元年8月1日現在の年齢を教えてください。



（問） 現在、どなたかと同居していますか。



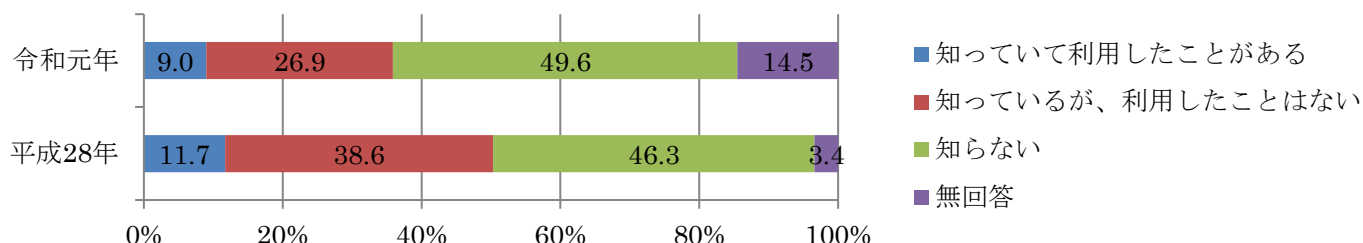
補足：「【「1. 同居している」と回答の方】同居している方はどなたですか。」に対してもっとも高い回答として身体及び精神は「配偶者（身体 73.9%）（精神 48.8%）」、知的は「母（82.8%）、父（59.1%）」であった。

(2)住まいについて

前回課題：住宅に関する経済的支援や住宅改善費支給制度の利用促進について

(問) 次の中央区における相談・支援・制度についてご存知ですか。／住宅設備改善費

(身体)



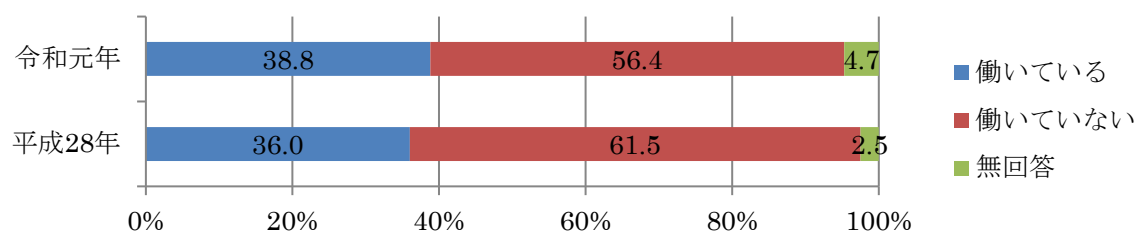
補足：「問 現在の暮らしの中で何か困っていることはありますか。」に対して「住まいのこと（バリアフリーになっていないなど）」と回答した人は全体の7.2%と低く、もっとも回答が多かったのは「特に困っていることはない(43.2%)」に次いで「お金のこと（収入、お金の管理など）(26.4%)」であった。

(3)就労について

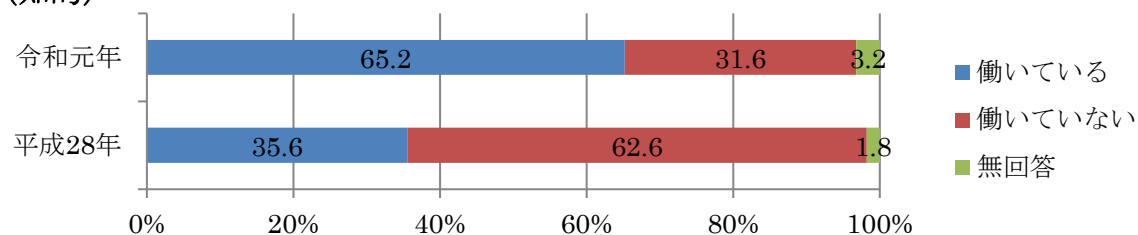
前回課題：身体障害者や精神障害者等が健康状態に合わせた働き方ができるよう、職場の理解を進め、特に知的障害者は一般企業での就労支援、障害に適した仕事の開発を行うなどが必要である。

(問) 就労（福祉的就労も含む）の状況について、お答えください。

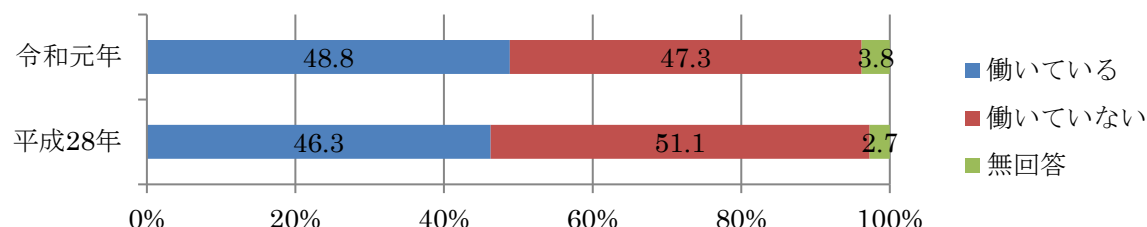
(身体)



(知的)

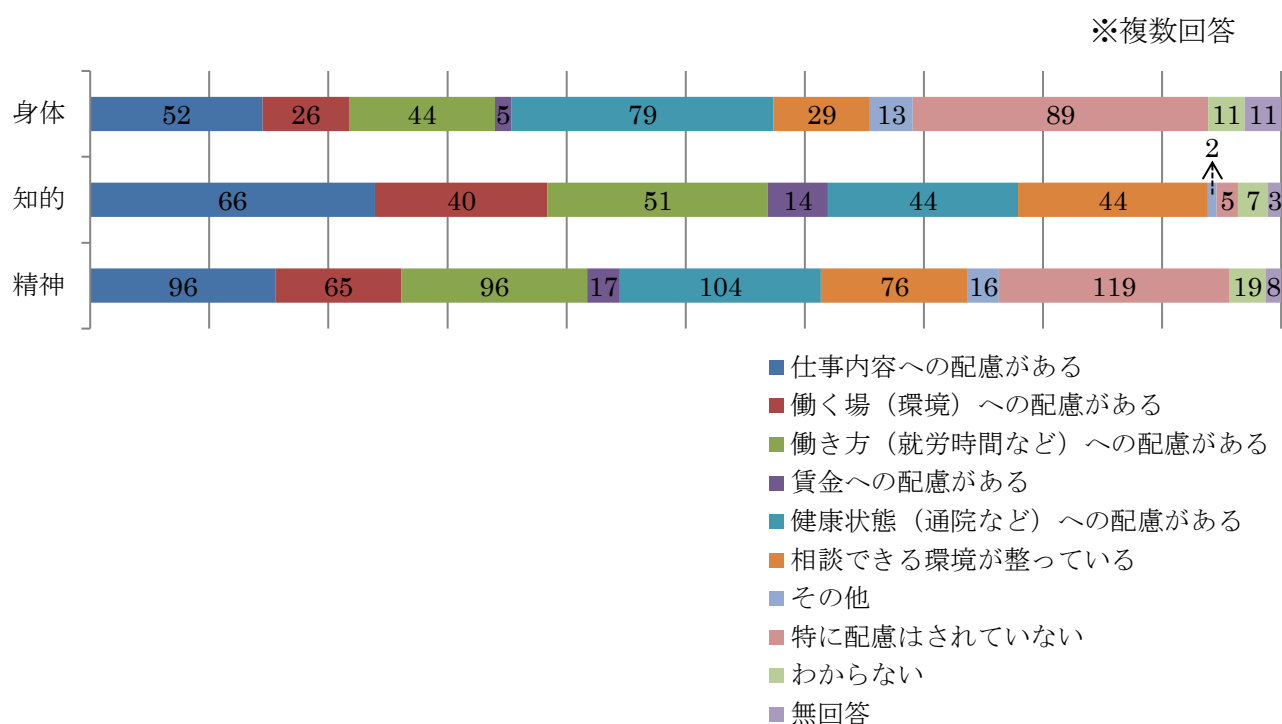


(精神)



補足：前回調査結果から知的障害者の「働いている」が2倍に増えている原因として、質問に「福祉的就労も含む」との一言を入れたため就労継続支援 B 型や作業所で働いている方が回答したと推測される。

(新規・問)【「働いている」と回答の方】障害に対して何らかの配慮がされていますか。



補足：「問 障害などがある人が働くためにはどのような環境が必要だと思いますか。」に対して身体及び精神は「健康状態にあわせた働き方ができること（身体56.1%）（精神68%）」、知的は「職場や地域の人たちが障害などのある人を理解し、配慮していること（53.5%）」がもっとも高い結果となった。

(4)文化・余暇活動について

前回課題：障害者が文化・余暇活動に参加しやすくするために、文化・余暇活動の提供者に対して、障害者や難病患者に対する理解の促進を図るとともに、環境整備や合理的配慮の提供を求めている必要がある。

(問) 文化・芸術・余暇活動などへの参加の妨げになっていることがありますか。

【身体障害者・難病患者】

	令和元年（H28実績）	平成28年度（H25実績）
第1位	電車やバスなどの利用が不便 12.4(13.6)	電車やバスなどを使つての移動が不便 13.6(15.4)
第2位	経済的理由 11.3(10.2)	道路や駅などの利用が不便 13.2(12.1)
第3位	情報がない 9.6(5.6)	経済的理由 10.2(10.0)

【知的障害者】

	令和元年（H28実績）	平成28年度（H25実績）
第1位	一緒に行く仲間がいない 18.7(16.9)	一緒に行く仲間がいない 16.9(8.7)
第2位	手助け（介助）してくれる人がいない 16.8(11.4)	電車やバスなどを使つての移動が不便 13.2(11.3)
第3位	情報がない 11.0(5.5)	周りの人の障害者や難病患者に対する理解不足 12.8(15.9)

【精神障害者】

	令和元年（H28実績）	平成28年度（H25実績）
第1位	経済的理由 26.3(25.6)	経済的理由 25.6(34.4)
第2位	一緒に行く仲間がいない 15.2(16.4)	一緒に行く仲間がいない 16.4(17.3)
第3位	情報がない 8.9(9.0)	情報がない 9.0(14.3)

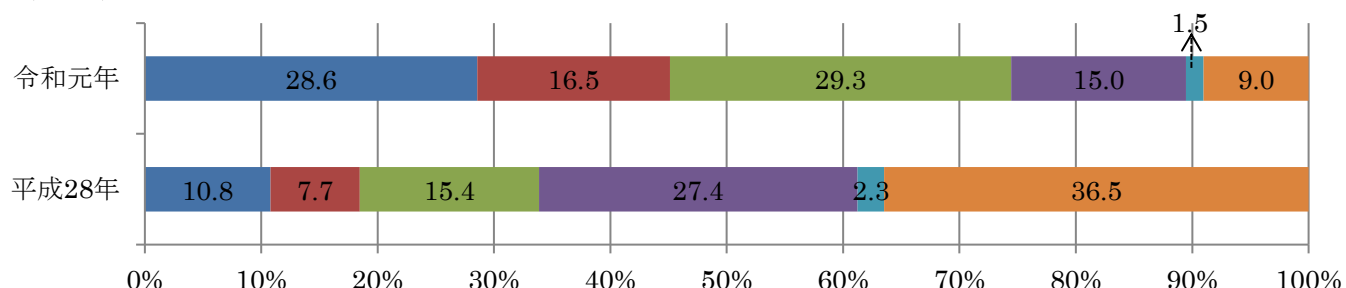
補足：身体、知的、精神ともにもっとも高い回答である「特にない（身体48.8%）（知的38.1%）（精神45.3%）」及び「その他」、「無回答」を除く項目において高い回答率の順に抽出している。

(5)障害福祉サービスについて

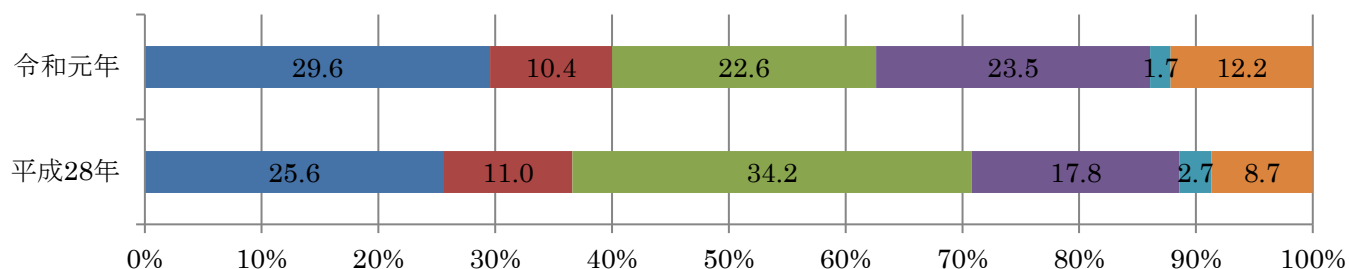
前回課題： 障害福祉サービスの充実を図ることが求められている。

(問) 利用したサービスについて、支給量は十分だと思いますか。

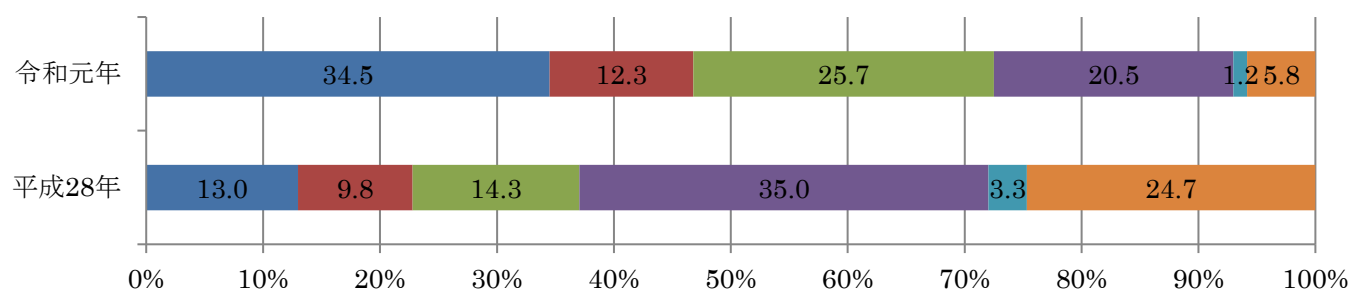
(身体)



(知的)



(精神)



- 十分である
- 足りない
- どちらともいえない (十分だと思うことも、足りないと思うこともある)
- わからない
- その他
- 無回答

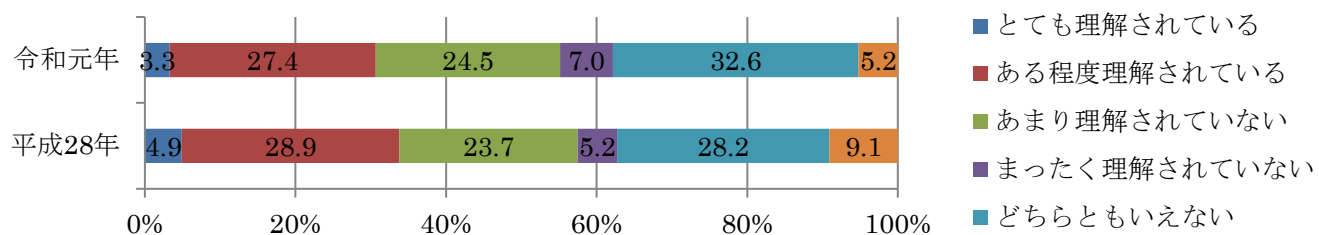
補足：「問 【「2. 足りない」と回答の方】 利用したサービスについて、足りないと感じるサービス」に対し、もっとも多い回答は身体で「リハビリテーションや日常生活に関する相談など（自立訓練・機能訓練、生活訓練）（27.3%）」、知的で「ショートステイ（短期入所）（33.3%）」及び「サービス等利用計画の作成、地域生活に向けた相談など（相談支援事業）（33.3%）」、精神で「ホームヘルプ、外出時の介助など（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援）（23.8%）」であった。

(6)障害者などへの区民の理解について

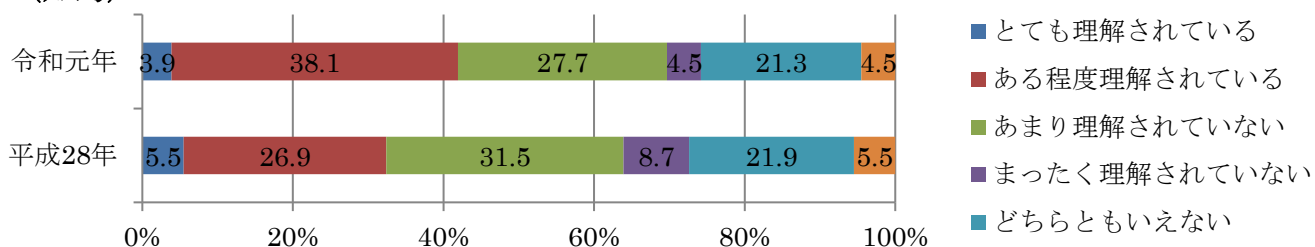
前回課題： 障害者等に対する区民の理解をさらに促進することが必要である。

(問) 障害や障害者、難病や難病患者に対する区民の理解について、どのように感じていますか。

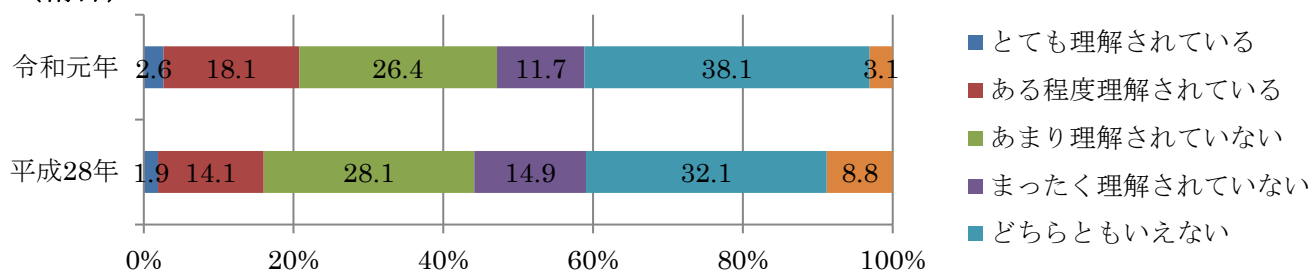
(身体)



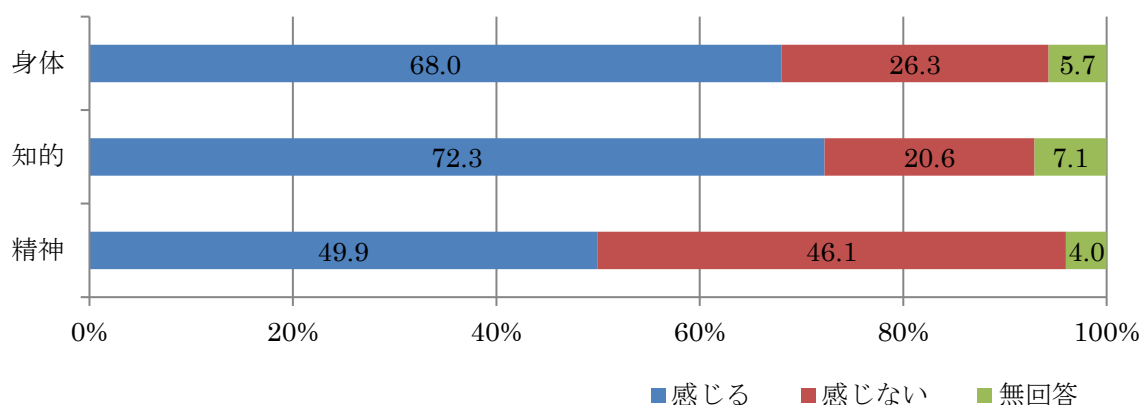
(知的)



(精神)



(新規・問) あなたの親しい間柄の人（家族・友人・職場の人）に、ご自身の障害や病気について理解されていると感じますか。



(7)災害時の対策について

前回課題：災害時における必要な支援として、必要な医療的ケアを受けられること、適切な行動を支援すること、障害特性に応じた避難指示等の情報提供等が課題である。

(問) 災害時に不安に感じることはいくつありますか。

【身体障害者・難病患者】

	令和元年	平成28年度
第1位	避難するときに適切に行動や移動ができるか 48.9	災害時に、必要な医療的ケアを受けられることができるか 40.2
第2位	必要な医療的ケアを受けることができるか 42.4	適切に行動できるか 38.9
第3位	災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか 32.8	災害の内容や避難指示等の情報を入手できるか 30.7

【知的障害者】

	令和元年	平成28年度
第1位	避難するときに適切に行動や移動ができるか 57.4	適切に行動できるか 58.9
第2位	周りの人から助けてもらえるか 48.4	周囲の人から必要とする支援を受けられることができるか 46.1
第3位	災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか 43.9	災害の内容や避難指示等の情報を入手できるか 44.3

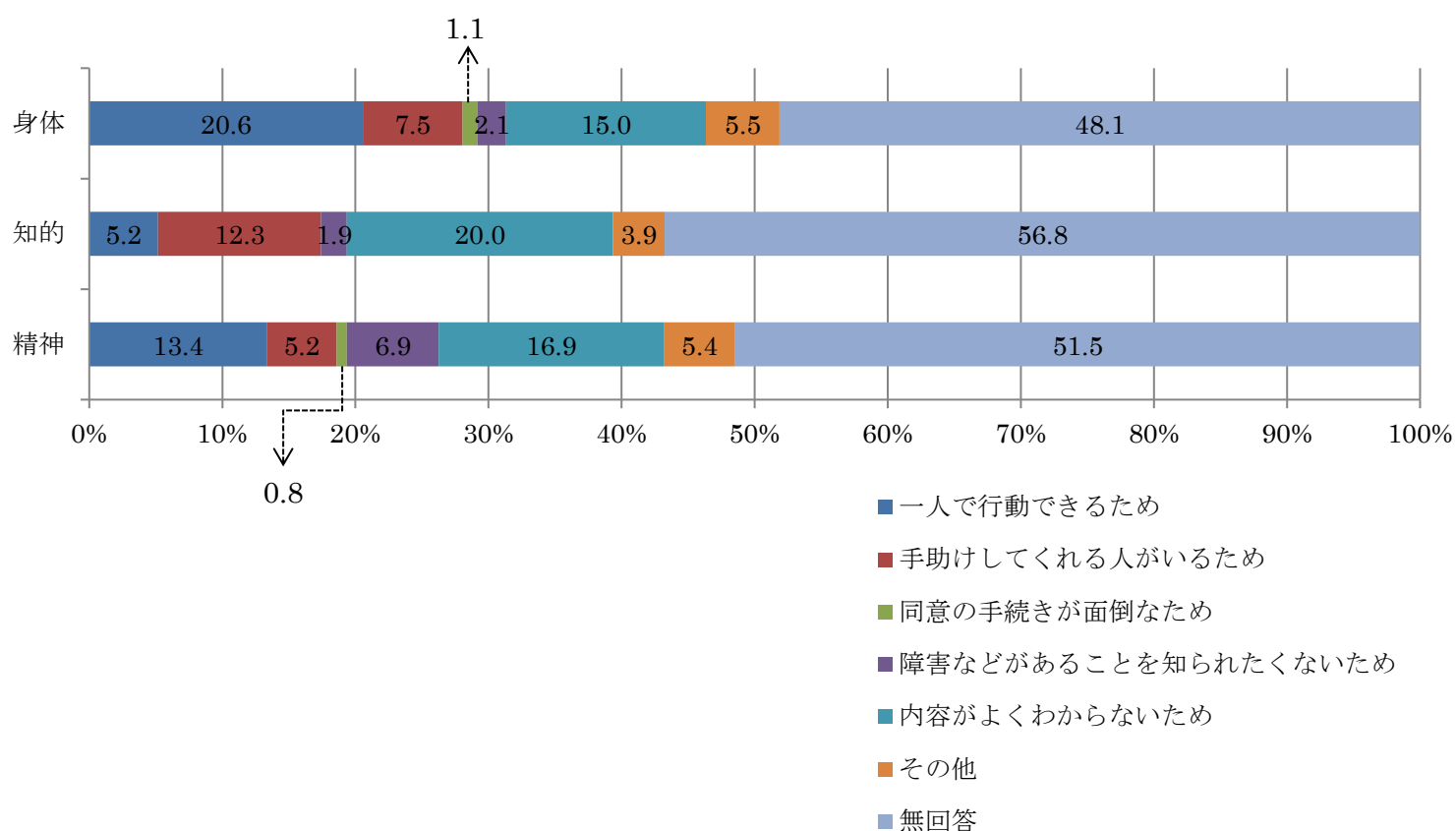
【精神障害者】

	令和元年	平成28年度
第1位	避難するときに適切に行動や移動ができるか 46.4	災害時に、必要な医療的ケアを受けられることができるか 45.5
第2位	必要な医療的ケアを受けることができるか 38.9	適切に行動できるか 38.6
第3位	災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか 38.2	災害の内容や避難指示等の情報を入手できるか 33.3

補足：「問 災害時に援助してくれる家族または近所の方などはいくつありますか」との質問で「いる」と答えた方は身体で67.2%、知的で80.6%、精神で57.1%と半数以上が援助してくれる人が身近にいる結果となった。

前回課題：災害時地域たすけあい名簿については、内容がよくわからない人が多く、登録状況が低いと考えられることから、登録することの意義や内容などの啓発・普及を図ることが必要である。

(新規・問)「災害時地域たすけあい名簿」に登録されており、避難支援など関係者への情報提供に同意されていない方、「災害時地域たすけあい名簿」への情報の提供に同意されていない主な理由は次のどれですか。



補足：前回調査において登録していない主な理由は三障害ともに「内容がよくわからないため（身体34.7%）（知的51%）（精神39.2%）」がもっとも高く、次いで身体及び精神は「一人で行動できるため、登録の必要がない（身体30%）（精神25.5%）」、知的は「登録しなくても、手助けしてくれる人がいるため（知的19.4%）」であった。

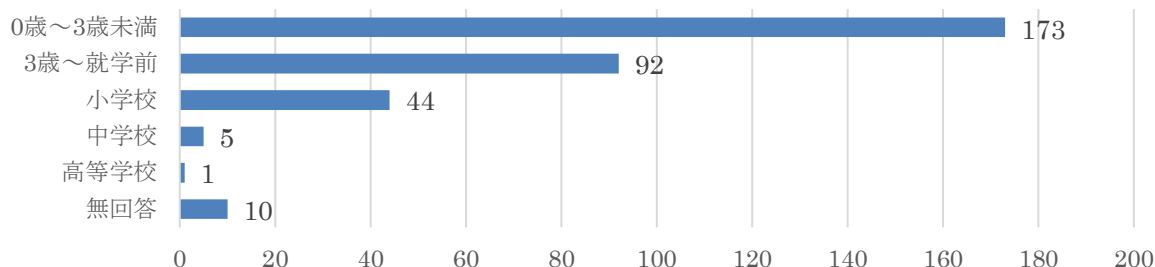
(8)子どもの育ちや発達について

前回課題：（調査対象は異なるが）調査対象の半数が、子どもの育ちや発達について、心配を感じている。保護者が気軽に相談できる窓口の充実、乳幼児期から学齢期まで切れ目のない支援体制づくり等を進めることが必要である。
また、近年増加傾向の医療的ケア児の実情把握も課題である。

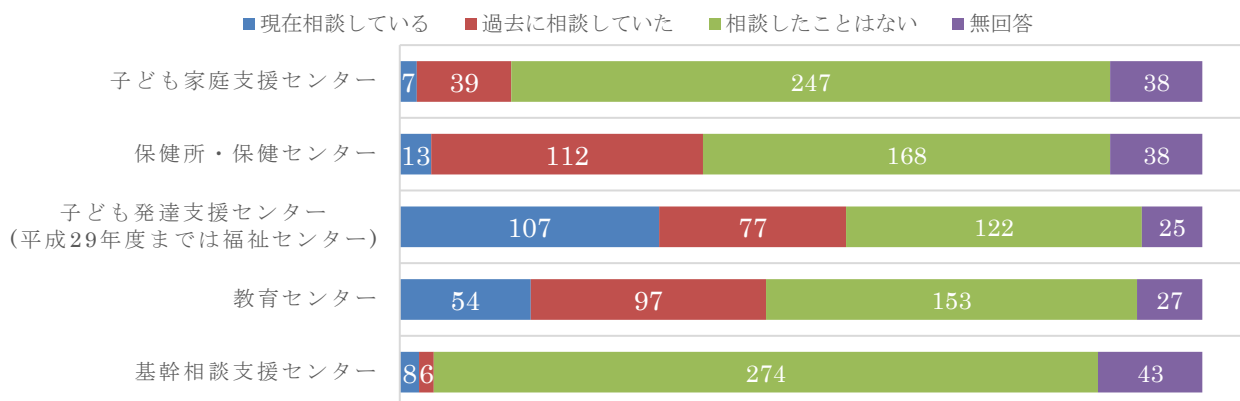
(1)子どもの育ちや発達について

回答いただいた331件のうち、子どもの育ちや発達について、気になることまたは心配なことがあるのは、328件(99.1%)だった。

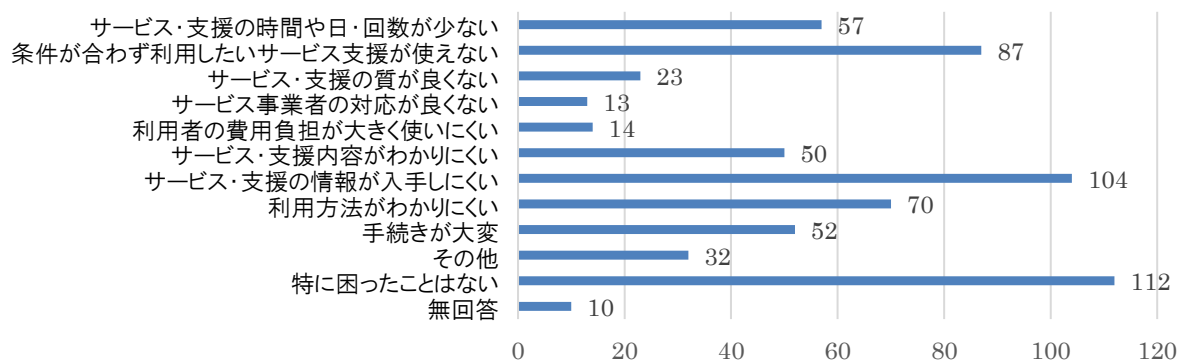
○最初に不安や疑問を感じた時期 (回答数325件)



○公的な専門相談窓口への相談（区立機関のみ抜粋） (回答数331件)



○福祉サービス・支援を利用する上での困りごと (回答数331件)



(2) 日常的に医療的ケアを必要としている児とその種別

医療的ケアを必要としている児は、28人だった。

そのうち、人工呼吸器管理等 生きていく

(種別は、複数回答)

ために日常的な医療的ケアを必要として

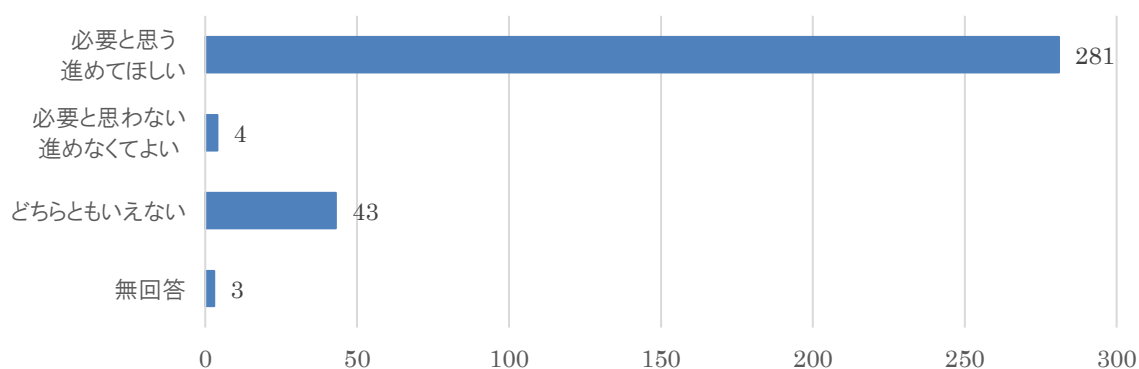
いるのは17人だった (右表参照)。

人工呼吸器管理(常時)	1
人工呼吸器管理(夜間のみ)	2
気管内挿管、気管切開	3
酸素吸入	7
痰などの吸引	8
ネブライザー	6
経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう含む)	10
定期導尿(手技は自立)	1
人工肛門(介助が必要)	1
人工膀胱	1

(3) 「中央区育ちのサポートシステム」について

○切れ目のない一貫した支援を目指す、区の実践について

(回答数331件)



○「中央区育ちのサポートカルテ」について

(回答数331件)

